

# 取組概要

## 社会情勢／社会課題

移動困難や交通事故リスクで見ると、わが国では総人口の約1/4が広義の交通制約者であると考えられる。

## 長期ビジョン

東京オリンピック・パラリンピックを一里塚として捉え、国内他地域への展開ならびに海外へのパッケージ輸出を見据えた次世代交通システムを実用化する。

## 東京大会での役割

交通不便地域である臨海部～都心のアクセスを確保するとともに車いすやベビーカーなど誰もが快適に利用できるユニバーサルな交通インフラを整え、ストレスフリーな大会運営を実現する。

## 3つの手段

**1** ソーシャルインパクト  
超高齢社会など世界的課題に対応する交通システムを備えた新たな都市像の提示。

**2** 大会ホスピタリティ  
誰もがストレスフリーに会場ならびに周辺地域を移動できるアクセシビリティを実現。

**3** シェアードバリュー  
国内の地方都市への展開や海外へのパッケージでの輸出など、新たな産業化を図る。

## 2020年に向けたコンセプト

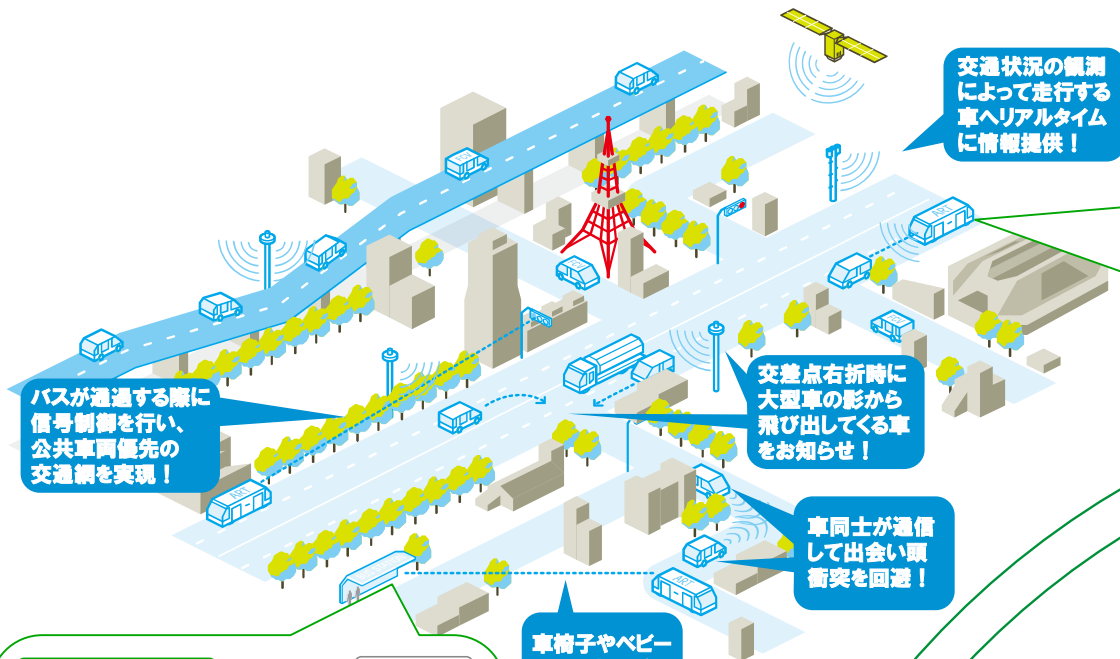
Mobility Innovation 2020

# 次世代都市交通システム

すべての人に優しく、使いやすい移動手段を

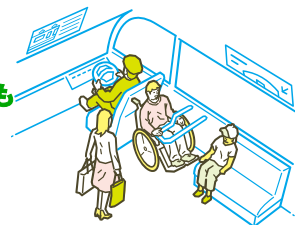
# 展開イメージ 「すべての人に優しく、使いやすい移動手段を提供する」ことを基本理念とする次世代都市交通システム「ART:Advanced Rapid Transit」の実現を目指す

## Scene1 街の中 公共車両が優先される快適で安心・安全な都市交通インフラを実現

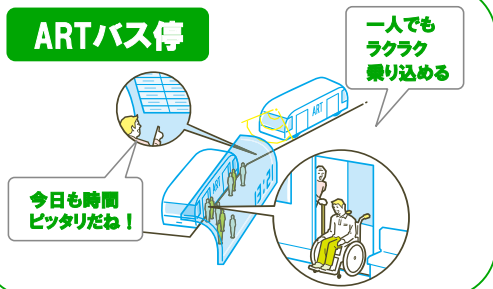


### ART乗車中

揺れが少なく  
静かだから  
車内はとっても  
快適！

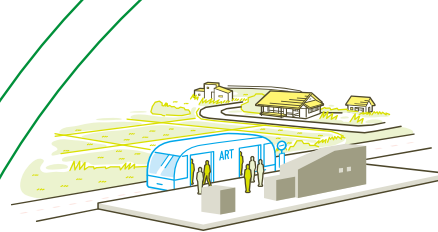


### ARTバス停

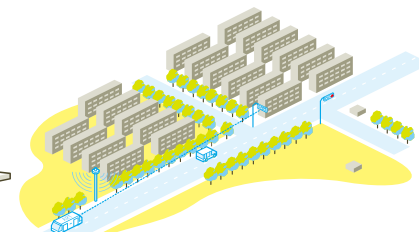


## Scene2 地方都市での活躍

高齢者の多い地域や  
交通不便地域の生活をサポート



【例1】  
ローカル鉄道の線路跡地を利用したARTの導入



【例2】  
ニュータウンなどの再開発にARTを取り入れたまちづくり